

新潟県 公民館月報

昭和57年4月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】

【電話・新潟(0252)24-6073】【振替新潟4049】

発行人 会長 石井耕一

編集人 事務局長 本田 清

【定価1部100円 年共・年価1,200円】



伊藤源治

名立の郷土芸能

名立駅を降り、南に約十キロメートルほど入ったところに折戸、平谷地区があります。

この地区に昔から伝承されている郷土芸能の獅子舞があります。この獅子舞は誠に勇壮で地元では「あばれ獅子」ともよんでいます。今は若者に受け継がれ地区のお祝いごと等に悪魔退散、普星皆来を願って舞われています。おもしろいのは、舞の中間に獅子舞をかぶり御幣と鈴を持ち、尻持ちの人がおかめの面をつけ身振り手振りもおもしろくお囃子に合わせて舞う姿です。

(絵の通り)

この踊りが済むと本来のあばれ獅子そのものの、息もつかせぬ舞振りは、観衆の血をわかせ、躍動美にただ見とれるばかりです。この野趣に富んだ芸能は、名立祭や芸能発表会など広く町民に勇姿を披露しています。

この様に地域の土壌の中から芽ばえ、育てられた農民芸能でありますから、大切に後世に伝えてゆくことも私達の仕事の一つです。

絵・文 名立町公民館長

伊藤源治

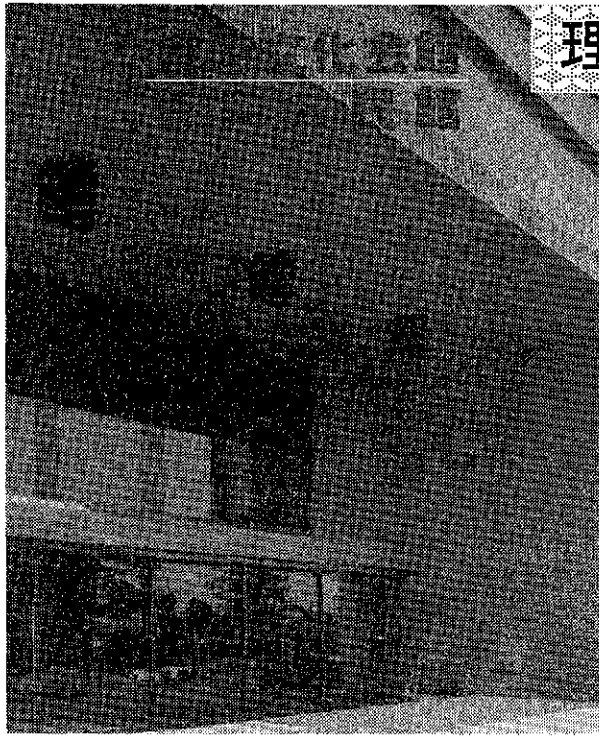
理事会で草案を検討

ことしの県公民館大会

行財政施策改善方策を究明

ことしの県公民館大会は、八月二十七日(金)巻町文化会館を会場として開催される方針で、先年以來、担当の下越公連、県公連で準備がすすめられてきた。この開催要項草案について協議する県公連理事会在、さる三月三十一日新潟市で開かれ、別稿のような草案をまとめた。この要項案は、今後さらに本会協議員会・県公連連総会のほか主催各機関団体で構成する実行委員会にはかられ、最終成案を得ることになってい

る。新年度の関公連大会は九月三、四日東京都で、全国公民館研究集会は十月十三・十四日長野市で開かれることが決定しており、それぞれ「公民館活動の原点」を見すえた実践の方向を模索しようとする大会要項案が検討されている。とりあえずここに県大会草案の骨組みについて紹介しご参考に供したい。

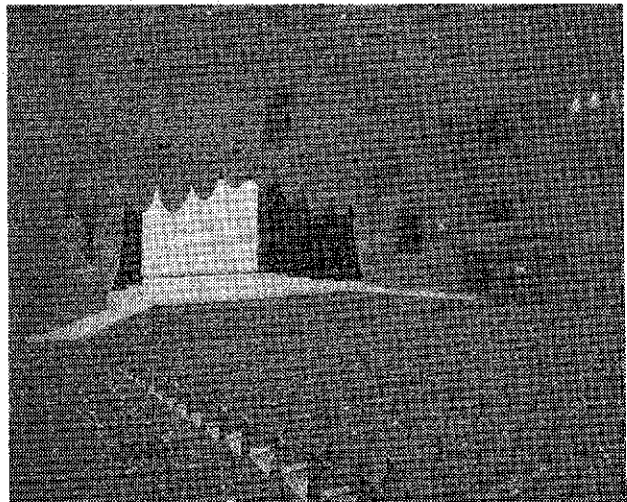


(ことしの県大会会場となる巻町文化会館・公民館)

第33回

新潟県公民館大会要項(案)

1 趣旨	公民館は住民の自治能力を育む地域社会教育の基幹施設として、また生涯教育を推進する重要な拠点の心とつとして、住民に支えられ継えられて今日にいたる。国および地方自治体もまたその必要な条件を整備するために努力を重ねてきた。	この現状に焦点をあて、これからの公民館をめぐる行財政制度改善への具体策を導出していくことをするものである。	長会・新潟県町村会・新潟県町村協議会・新潟県社会教育主事連絡協議会・新潟県社会教育主事連絡協議会・新潟県体育指導委員協議会・新潟県社会教育協会・新潟県市町村教育委員会連合会・新潟県連合青年団・新潟県婦人連盟・新潟県小・中学校PTA連合会・新潟県高等学校PTA連合会・新潟県高等学校PTA連合会・新潟県新社会運動協会・NHK新潟放送局・新潟放送・新潟放送テレビ・新潟テレビ新潟放送網・新潟日報社
2 主題	「公民館をめぐる関係行財政施策改善の具体策について」	新潟県公民館連合会・新潟県公民館振興市町村長連盟・新潟県教育委員会・下越地区公民館連絡協議会・巻町教育者協会	6 期日 昭和五十七年八月二十七日(金) 7 会場 巻町文化会館 所在地 西蒲原郡巻町巻甲六三五
3 主催	新潟県公民館連合会・新潟県公民館振興市町村長連盟・新潟県教育委員会・下越地区公民館連絡協議会・巻町教育者協会	新潟県公民館連合会・新潟県公民館振興市町村長連盟・新潟県教育委員会・下越地区公民館連絡協議会・巻町教育者協会	8 参加者 市町村長・同議会議長・同議会議員・同教育委員・同社会教育委員・同公民館運営審議会委員・同公民館長・主事・職員・社会教育指導員・社会教育指図書・社会教育一般住民等
4 後援	新潟県市長会・新潟県市議会議長会	新潟県市長会・新潟県市議会議長会	9 日程 九・〇〇 受付 一〇・〇〇 謝会式 表彰式
5 主管	下越地区公民館連絡協議会・巻町公民館	下越地区公民館連絡協議会・巻町公民館	



(一、〇二三人を収容できる大ホール)



戦前、教員は「師魂」、医者
は「仁術」、鉄道は「鉄魂」
郵便局は「郵便魂」を持ってお
り、自分の職務に誇りと責任を
持ち、その遂行には万難を排し
てあたったものだ。しかし、わ
が国は敗戦とともに価値観、職
業観、が交わり、戦後の経済成
長は物質力能主義になり「魂」
が抜けてしまったのだ。

いま教育界で青少年の非行が
低年齢、集団
化、凶悪化
し、果ては校
内暴力にまで
発展してい
る。戦前には
考えられない
ことである。



魂の復活

本間重蔵

が困難であれば一年も、二年も
待つてくれた。ところが今では
日照、祭日は休診、しかも、医
療費の不正請求が噂される。可
憐なほどは医者がいつも上位に
あり、最近の医者は「仁術」を
忘れ、「算術」ばかり強りと
かつて郵便局は「早く

かつて教育は子供のためには優
食を恐れ、赤
貧に甘んじて
奉職した。そ
して、子供、
父母、社会が
ら尊敬され、「先生様」と言わ
れた。

しかし、最近の教員団体は給
料上げ、旅費増やせと騒ぎ、
支給する土着拒否し、時には
ストもある。これでは児童、生
徒がたがうてしまふ。こので

かつてわが国の鉄道は列車
の発着時刻の正確さで、世界的
に高く評価されていた。ある外
トであった。そして、急病人が
あれば日照、祭日は勿論、深夜
でも急診をし、治療代の支払い
話もある。ところが最近列車
は、一寸の降
雪でも遅れ
る、遅れも再
三である。一
方、国鉄が大
量の通信の役割りは大きい。そ
の使命感の復活を望みたい。
(新潟青陵女子短期大学
新潟青陵高等学校勤務)

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

- 11 パネル討議
テーマ「公民館をめぐる関係行
財政運営改善の具体策について」
構成
司会 ジャーナリスト
登壇者 公民館利用者
公民館職員
コメンテーター 施設関
係者
研究者
- 12 昼食
参加者の昼食は主催者において
用事する。
13 参加費 一、七〇〇円
14 大会現地事務所
〒九五三 西蒲原郡巻町巻甲六
三三三
第二十二回新潟県公民館大会現
地事務所
電話 〇二五六七二二三三
九

巻町文化会館の概要

所在地 新潟県西蒲原郡巻町大字巻甲 635番地
工期 着工 昭和53年12月20日
完工 昭和55年3月31日
総工費 15億6,161万円
敷地面積 13,107㎡
建築面積 3,087㎡
延床面積 5,954㎡ (文化会館部分 4,295㎡、公
民館部分 1,659㎡)
構造 鉄筋コンクリート造り、地下1階、地
上3階、塔屋1階

文化会館施設

大ホール 収容人員 1,022人 (固定席 907、移
動席 115、身障者イス9席含む、オ
ーケストラピット使用時減88)
舞臺 開口16m、奥行14m、高さ7.5m
練習室 3室
浴室 2室

公民館施設

図書室 135㎡
調理実習室 58.5㎡
視聴覚室 96㎡
研究室 和室1 (56㎡)
洋室1 (200㎡)
小ホール 240㎡、移動席 270席、固定舞台及
び照明設備
駐 車 場 普通乗用車約 200台収容

公民館のあるべき姿と今日的指標

— 総 集 版 —
全公連では十五年 A5版 布クロ
前に発行した「公
民館のあるべき姿
と今日的指標」の
復成再刊の要望に
答えて、新しく第
二次成案を合本
し、「総集版」を
発行した。
頒価 二、五〇〇円
(送料別)

申し込み先
新潟県公民館連合会
951 新潟市川端町二一九
県林業会館内
TEL 〇二五二四一六〇三

色紙(表紙絵)募集

公民館の絵画教室での
傑作、利用グループの中
で絵をよくなる人の作品
なく、なるべく多量に置
で書かれたもの。
絵の内容は「名画、旧
蹟、文化財」などのほ
か、表紙にふさわしいも
のであればなんでも結構
です。説明文は四百字程
度でお願いします。

研集会の記録

る。これらを支えるのが公運審の役割である。

3. 公運審の重要性

公民館は学校と違い、どちらかと言えば奨励法ともいわれる法律を根拠としているため、個々の自治体の考え方で千差万別の状態である。ここに公運審としての重要性がある。

4. 公運審の基本的、歴史的背景を述べた後、公運審は諮問に答えるだけでなく、社教法第28条の法律以上の精神にせまる啓蒙努力が必要である。

5. 公運審のあり方

- イ、公運審は各公民館になければならない。
- ロ、公運審は年最低6回の開催が必要である。
- ハ、公運審委員の視察研修をすべきである。
- ニ、公運審の連絡会議をもち情報交換をすべきである。

討議内容

つぎに助言者より討議の基本的考え方が示された。

昭和21年次官通達の中の公民館委員会であったのをもう一度思い出してみたい。この委員会は、かなりの権限(例えば、公民館長の選任だけでなく、公運審は住民の直接選挙の代表であった)があり、現在の社教法に根づくよき生きている。こういう歴史的経過から今日の現状と理念のギャップが大きいため、実現可能な提案ということで群馬県の公運審開催回数年平均3.3回をせめて6回に、また条例をしっかりとしたものにつくろうなどが示された。この後討議に入り各館より意見・実態が出されたが、内容的にあまりにも地域格差があり本質的討議に入るまでに至らなかった。次に掲げるのは、主な参加者の発言した意見、実態である。

◎公運審は形式的に会議で終らせるのではなく、基本的精神として良いものに一緒に作りあげるのが良い。

◎公運審はもう一步進んでサークルの場になぜとけ込まないのか。

◎公民館の自主グループに公運審からの答申でやっと公費をつけることができた。

◎公運審を毎月1回開いているが全員毎月出席している。

◎住民とのつながりをもつ公民館報の中に公運審のコーナーを設け住民に会議の内容を知らせている。

◎公運審委員の平均年齢40~50代と若返りをはかり委員15名のうち半数は女性が登用されている。

◎住民主体の公民館でなければならぬが行政と住民は適当な緊張関係を保っていないと駄目。

◎ここで助言者より現実には本当に凸凹であり公運審横の連絡会議が必要であると発言があった。

◎3館建設構想の3館目の建設のとき住民主体の運動で各地区準備委員会を設け、その中の委員が交替で議会の傍聴をしている。このような事からも議会側で真剣になり、これが本当に良い意味での応援である。

◎分科会に集まった人が、お互いに良い所をとりあい連絡協議会をもち横の連絡を密にする必要がある。

◎公運審の回数が問題ではなく量より質を高めれば、年4回開いても8~10回開いたことになると思う。

◎公民館は社教法に位置づけられているが、公民館独立法みたいな法的裏づけが欲しい。

◎各館には、是非とも地域の特性を生かした公運審を置く必要がある。

(助言者より)

まだ本音が出ていない。討議内容にあまりにも地域格差があり、もう少し参加者が他の自治体はどのようにやっているのかという各館の実態をふまえて参加すれば話が進んだのではないかと思われた。

(助言者より)

1. 現在の公運審の委員は、ほとんど団体の長に任せている。このような人は、高齢・多忙なため実質的論議が出来ない。もう少し若返りを図るため委員に若い人を登用し、むりに団体の長でなくても良いのではないか。また普段あまり公民館を利用していない代表が多すぎるため、もう少し公民館利用者に目を向ける必要がある。

2. 公運審は出来あがった話を聞くのではなく、公運審の中で実質的議論をし話を出すような専門委員会の活動がぜひ必要である。

3. 日常に公運審の活動を住民に知らせるために公民館報の中に公運審のコーナーを設けるとか、直接利用者懇談会を開くなどの姿勢が欲しい。

あらためて公・民の役割と負担を考える

役割と負担を考える

財政再建、行政改革等まひし 備充実とともに理事者をはじめ条件での昭和五十七年度 市民の公民館活動への期待も年算の編成は終わり、また新しい年度がはじまった。

柏崎市の五十七年度公民館予算は総額五五、八六六千円(前年比四・八割増)、市民一人当り六六、九円である。

ここ数年、予算編成をとおして特に感ずることは、施設の維持管理に要する経費の急増と、活動費へのしわ寄せである。

柏崎市では五十七年度から「長期落着計画」にもとづいて、毎年一・三館の地区公民館の施設整備を進めているが、この計画がスタートをした五十七年度公民館予算は、維持管理に要する経費の急増に占める割合は二七・七割で、活動費は二一・三割であったが、八年目を迎えた今年、それは前者が八八・九割と正されなければならないと思われ、後者が一一・一割となった。

公民館番頭日記

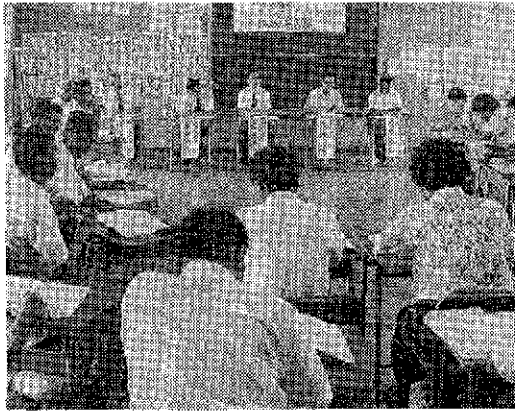
(12)

しかし、公民館の中核的な役割が「まなぶ・学習と創造」であることを考える時、活動予算が乏しいからという理由で、活動が消極的であることはならないと思つたのである。

事業の精選、予算の効果的な執行などあわせて、公民館活動における公・民の役割分担、負担のあり方があらためて問われなければならないと思われ、後者が一一・一割となった。

施設が毎年着実に整備され、利用者も年々増加してきたことはいずれのことか、公民館の基本的な役割である「あつまる・集いと活用」を果たしていることとなるのだが、施設の整備、参事兼事務長(徳間 助夫)

第22回関東甲信越静公民館研究集会在
さる8月20日埼玉県嵐山町国立婦人教育
会館で開かれた。ここに第二分科会・第
三分科会の要旨を掲載する。



(活発に意見を出し合う分科会)

第2分科会「公民館長の職務 (町村)」

〔討議内容の柱〕

- ・公民館事業及び活動の企画編成
- ・公民館運営審議会委員の活用

発表者	牟礼村公民館長	丸山 久
司会者	寄居町中央公民館長	椎野 節三
助言者	白田町公民館長	三石 晴夫
発表内容		

特に、公民館運営審議会の活用ということについて発表がありました。

もとより、社会教育は住民主体の相互教育自己教育を基本構造にしている。よって、住民の意思・動向を適確にとらえるためには、きめ細かな審議・研究の積み重ねが重要である。その住民の意思を反映させていく場面で唯一の公的なものが公民館運営審議会であり公民館活動が住民と遊離させない重要なパイプ役である。

ところが、それにもかかわらず、公運審の果たす役割、または活用が不充分であったり、単なる形式的な諮問になりがちが一番の原因は、諮問する事項が、公民館の当面している内容(例えば、その年度の事業計画・予算)のみの諮問に終始しているからである。それよりむしろ、長期展望などを模索してもらうような諮問の方が大切であろう。

それには、まず委員自身に社会教育の現実を理解してもらうための手だてが必要であろう。公民館に関して、継続的に問題意識をもってもらえるために、普段でできるだけの資料提供をしたり、現実の事業を見てもらうことも大切である。また、諮問書をあらかじめ、委員に送付しておき、熟読してもらっておく配慮がほしい。

牟礼村公民館では、以上の観点に立ち、「これからの公民館はいかにあるべきか」を諮問し答申をうけたと報告されました。

討議内容(話し合いの主たる内容の要約)

第1に、牟礼村では、22の分館(今夏1つ増えた)が

第22回関公連公

あることについて、助言者の三石先生から、長野県では、分館活動が公民館活動の原点であるという意識が強いとお話いただいた。

第2に、青年会、婦人会の育成についてはそれぞれの歴史的経過や目的をしっかりと見極めながら、育成していくことが望ましいのではないかと話し合われた。

第3に、公民館運営審議会委員の2号委員については、団团长にこだわらず、団体を代表する人でよいのではないかと。というのは、団团长は、多忙をきわめているので、会議に欠席になりがちであるから。

まとめ(助言者の三石先生)

社会教育法第27条の2項「館長は、公民館の行う各種の事業の企画実施その他必要な事務を行い、所属職員を監督する。」

また、社会教育法第28条の2項に「館長の任命に関しては、市町村の教育委員会は、あらかじめ、第29条に規定する公民館運営審議会の意見を聞かねばならない」とある。

上記の法律を念頭に、公民館長は、現在の公民館のおかれている状況、たとえば、館長の立場や問題点を整理しておくことが必要であろう。また、公運審に諮問する場合、具体的に問題点をはっきりさせて諮問するとよいだろう。最後に、公民館と教育委員会が同居している町村があるとなれば、教育機関と行政機関の同居は、具合がわるいので、すみやかに分離することが望ましいとお話された。

第3分科会「公民館運営審議会委員の役割」

〔討議内容の柱〕

- ・公民館運営審議会委員の役割と活動について

発表者	桐生市公民館運営審議会会長	大西 康之
司会者	川口市前川公民館長	藤田 良三
助言者	群馬大学教育学教授	山口 富造
発表内容		

はじめに発表者から討議の進展をはかるため、問題提起として次のような発表があった。

1. 公運審の現状

現在の公民館は、それ自体きわめて弱体で公運審がその柱となっているにもかかわらず、時代の要請に応える力を持っている所が小さい。しかも公民館の発展にとって欠かすことのできない本質的な役割を与えられている公運審も、現状では生き生きと活動し真の住民の期待に応える所が少ない。こうした厳しい状況下にある公民館に対し、公運審が支えなければ他に公民館を支えるものはない。このような使命感をもち、審議会は形だけでなく、その枠をこえて活動することが求められている。

2. 力不足の公民館

最近、特に公民館に対する期待が高まって来ている現在、公民館の中に住民の要求が山積みである。これに応えるためには、あまりにも現状の態勢では力不足であ

新生公民館繁盛記

(17)

公民館は花ざかり、これまでですのに二十四館の公民館が登場、好評をいただいています。これからもう少し紹介いたします。

高まり大盛況

休日も交替で勤務する職員

開放利用講座が計画されておきます。このように新しい公民館になります。新しい試みとして、公民館の機能を生かすため、三、四の文化団体の活力を支援し、文化の底辺拡大と振興を図るため、絵画、音楽、文芸関係等、美術、芸、能、趣味と三部門に分け、約二〇団体と提携しての各種入門講座が計画されており、職員が交替で勤務し、各団体の結集された方が発揮できるような技術の向上を図りつつあります。

(前)三条市中央公民館長 木村 雅久

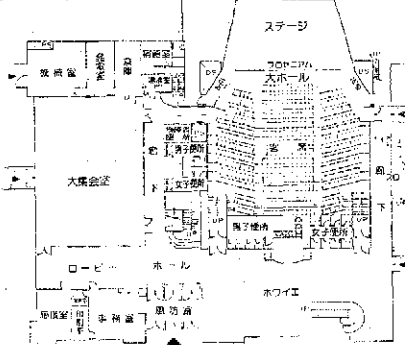


三条市中央公民館

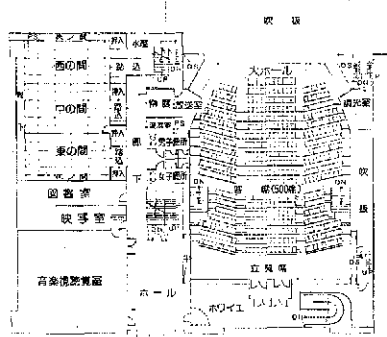
(固定席五〇〇の大ホールも
そなえた、デラックス公民館)

平面図

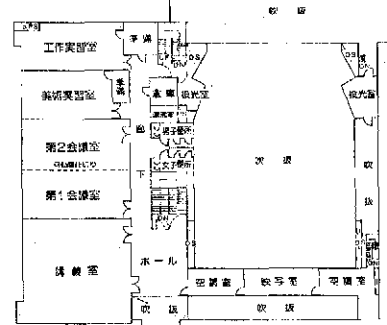
(1階)



(2階)



(3階)



公民館は市民の茶の間として単に趣味的活動だけでなく、生涯教育センターとしての使命は大きく、市民の生活に直結し、地域文化を育み、市民の活力が生きる場として建設された。

三条市には中央公民館のほかにも地区館が四館、分館五館で活動しています。

中央公民館は元市役所跡地に総事業費七億四千円余を投じて鉄筋コンクリート三階建、建物延面積、大集会室、和室、会議室、美術室、子供読書大広、生活技術講座

公民館は市民の茶の間として単に趣味的活動だけでなく、生涯教育センターとしての使命は大きく、市民の生活に直結し、地域文化を育み、市民の活力が生きる場として建設された。

三条市には中央公民館のほかにも地区館が四館、分館五館で活動しています。

中央公民館は元市役所跡地に総事業費七億四千円余を投じて鉄筋コンクリート三階建、建物延面積、大集会室、和室、会議室、美術室、子供読書大広、生活技術講座

▶構造	鉄筋コンクリート三階建
▶敷地面積	3,509.92㎡
▶建物面積	延面積2,896.13㎡(塔屋15.3㎡を含む)
1階	1,358.03㎡ 大集会室 184.7㎡ 大ホール 631.5㎡
2階	862.73㎡ 音楽視聴覚室 124.7㎡ 和室 163.9㎡
3階	660.07㎡ 講義室 127.8㎡ 第1、2会議室61.6㎡ 美術実習室57.8㎡ 工作実習室65.7㎡

生きています

公民館報

「館報しおざわ」は、タブロイド版4ページだての館報。編集は塩沢公民館報編集委員会を通巻二二二号を誇る。タブロイド型式の館報は一時全盛をきわめたものだが最近はやや少なくなった。公民館報が行政広報をかねるスタイルのものも見られるなかで、公民館主導型の紙面構成で好感が

もてる。紙面の中で「歴史講座終る」という見出しに興味をひかれたが、その中身についてもっと知りたいという思いにかられた。

また文芸欄は、詩・短歌・俳句・川柳などの各選者が懇切な選評を加えているのが魅力。「館報さんほく」に次ぐ伝統と実績をもつ。

館報しおざわ

町内小学校親善 スキー大会

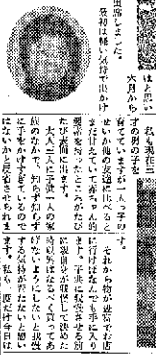
火災予防運動積極
火事の注意も
家事のうち

第十一回町内小学校親善スキー大会が、二十一日(土)朝霧高原スキー場で行われ、各校代表児童が参加した。各校代表児童が参加した。各校代表児童が参加した。

各校代表児童が参加した。各校代表児童が参加した。各校代表児童が参加した。



町の人口(2月1日現在)
世帯数 4,892
人口 10,325
男 5,104
女 5,221
1月平均出生数 23
1月平均死亡数 21



おひざわのコーナーに関する記事。おひざわのコーナーに関する記事。おひざわのコーナーに関する記事。



歴史講座終る

歴史講座の最終回が行われ、参加者からは好評が寄せられた。歴史講座の最終回が行われ、参加者からは好評が寄せられた。

信子様に関する記事。信子様に関する記事。信子様に関する記事。



一万円を寄付に関する記事。一万円を寄付に関する記事。一万円を寄付に関する記事。

プロフィール

頸城村公民館係長 古川 龍尊氏(41才)

フルカワ・リユウジ、体重九〇キロ。上越地区管内の公民館・社教関係の間では、知らない人はいないというくらい有名な「リユウジ」。

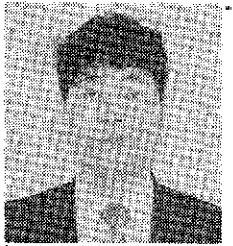
昭和三十六年頸城村役場に就職し、住民課・税務課を経て、四十六年教育委員会に勤務、公民館活動の開始である。以来十二年の間、いろいろな苦労も十二分に味わい、「公民館があらゆる生涯教育活動のセンターとして、ミニユニティづくりと村民意識の高揚に務めること」をモットーに、さまざまな実践活動を行ってきた。昭和五十年社会教育士の資格を取得し、以上に見解を広く広範囲な活動を展開。社会教育という職務上、父層の人達と接するが、その中でも特に婦人層の信頼が厚く、地域人会・婦人団体づくり事業の中心人物として活躍している。

現在、中頸城郡公民館連合会の事務局長と幹事を兼務。郡内での広域事業推進に取り組んでいる。

寛容な性格は、人から親しまれ、ユーモアに富む巧みな話術で行く所すべて、爆笑の渦と化する。これが、婦人層に人気がある秘密かもしれない。現在の体格からは想像もつかないが、かつては、職場野球チームの選手、監督を経験し、人を動かす才能を発揮した。また、卓球選手もこなすというスポーツマンでもあった。

趣味は、囲碁、他、野菜作りなどで、社会教育が趣味といえるかもしれない。大の酒好きで、しかも酒には大豪胆の。「上越の酒」といわれる酒が、きりかきである。これが、公民館活動の超ベテラン選手。奥さんとともに二人の四人家族で無難な妻帯者であり、子供もいる。

今後とも、健康に留意され、ますますの活躍を期待したい。



頸城村公民館係長 塚本(二采)

あの頃のこと

頭の痛かった青年学級 (2)

中野 滋

昔も今も、社会教育関係者が、最も苦勞しているのは、青少年教育ではないでしょうか。青少年団体の育成、学級、講座の運営など、戦後の社会教育がはじまった以来、いつも、頭をいたためきたように思います。激変する社会の動きが、一番強く影響する層であり、敏感に反応する年代であり、このことは、当然のこととも知れません。

今回は、青年学級について、ふり返ってみたいと思います。

現在、青年学級が、どんな実態であるかは、勉強不足でわかりませんが、今後は、今後のことについて考察するつもりもありません。

【新潟県百科事典】(五十一年発行・新潟日報事業社)の「青年学級」項目に、私(担当)は、次層しているものもある。」

なる。一般教養、職業、体育、レクリエーション、婦人会と青年団を主たる対象として社会教育活動を始めた公民館は、重要な事業として賛成を以て、公民館と青年団の対立となつて、青年の都市集中、高たわびです。本県の場合は、青年校進歩の向上、産業界の急激な変化の目的学級開設がなかつたため、本県が、大きな動きもなく過したようです。

三、七六八であったが、五〇年で、一〇二学級、三、七三八となり、法による補助基準一〇〇時間以上学習するのは約半数である。青年学級充て振興のため、毎年、県青年学級生大会、全国青年学級生大会が開催されている。なお、勤労青少年の学習機会としては、青年学級、青年講座なども開設され補助がある。また、少年学級、企業内青年学級を設けて、補助しているものもある。」

昭和二十八年、青年学級振興法の施行に当たっては、青年団等の学級活動が、強いつつある。青年学級を目的とする青年運動の一環としての学級活動と把握し、法制化による行政の積極的推進の強化を齎したものでした。

で、正直なところ、公民館でも簡単に取組めない状況もありました。法にとられず、補助なしで青年学級として、学級の名称は使っても短時間で実施しているものも多かったのが実態でした。

また、青年学級の開設には、青年の自主性を尊重し、地域青年の申請による開設を前としていた。本県の場合は、青年の積極的な開設申請は少なく、市町村教育委員会の職権による開設がほとんどでありました。実施機関は公民館が最も多かったのですが、施設は小・中学校の教が上廻っていました。

学級生は、男子十八歳以上、女子十八歳未満が多く、対外的で、職業別では、殆んどが農林従事者でありました。

学級内容は、家事、一般教養、職業、体育、レクなどでしたが、女子は、和・洋裁、料理、編み物、縫製、編み物、料理、が中心で、殆んどが時次を習得して行くというふうで、一般教養や体育、レクを組み込んで、鬼ごっこ、のりまき、など、遊びが中心で、青年学級生が「困窮」を感ずるようになったが、使いこなすに終わってしまいましたが、勉強がいやな感じが、好きなきをさせようとして、「好きなことがない」と言うのが、多く、お手あげで、泣きだす、青年学級という青年学級であったことを思い出しています。

学級内容については、家事、一般教養、職業、体育、レクなどでしたが、女子は、和・洋裁、料理、編み物、縫製、編み物、料理、が中心で、殆んどが時次を習得して行くというふうで、一般教養や体育、レクを組み込んで、鬼ごっこ、のりまき、など、遊びが中心で、青年学級生が「困窮」を感ずるようになったが、使いこなすに終わってしまいましたが、勉強がいやな感じが、好きなきをさせようとして、「好きなことがない」と言うのが、多く、お手あげで、泣きだす、青年学級という青年学級であったことを思い出しています。

新設田中養小中学校長(元県社会教育主事)

あ と が き

新潟県公民館月報は、本号で通巻三五〇号となりました。

昭和二十八年二月二十日第一号が発行されて以来、新潟県大に事務局の移転、新潟地による休刊の危機をのりこえ、幸いにも一回の休刊もなく今日に至りました。このことは、ひとえに読者の皆さんの口頭のご支援のたまものと存じ感謝申し上げます。

この機会に創刊号を開いてみましたら、編集委員五人のうち一人として石井耕一氏(現本会会長)の名前を見つけて、ちよつとびっくりしました。また当時の本会会長の丸山直一郎氏(現編集委員、編集委員長)が、次のような発刊のことは述べられていることも感銘を受けました。「公民館は郷土愛の発露によつて発展するであらう」と。

詩

初 春

浅 間 勝 衛

安かれ 核よ 晨よ

二重切りにさす山茶花から
幾つか花びらが曇にこぼれた
うしろは明り障子
床の間の大鏡は復刻だが
雲版に嵌めこんだ墨書の詩は
自作

年の瀬には孫娘も生れて
おおきな瞳に
元日の空が映っている

あ あ 明けてゆく一九八二年の
元糸魚川市公民館長
埼玉原越谷市
弥十郎 4-10 在住